

# 航空機操縦士養成連絡協議会

## 技 量 向 上 ワ ー キ ン グ グ ル ー プ

### 平成29年度とりまとめ

#### 1. ワーキンググループ構成員

別紙のとおり

#### 2. 平成29年度における取組み

これまでの訓練オブザープの実施促進や操縦技量等フィードバック会議の開催を通じた情報共有やフィードバックを行うことにより、民間養成機関における教育の向上、航空会社のニーズの把握とそれを踏まえた人材育成、様々な情報が共有されることにより個々の養成機関では顕在化していない問題への早期対応等、様々な効果が期待されてきたところであるが、これまでの活動を通じて既に民間養成機関等での継続的かつ自発的な技量向上活動の流れが出来上がりつつある等、一定程度の成果は結実し、ワーキンググループ内で議論すべき新たな検討課題の提起等が無い状況にあった。

そのため、平成29年度の取組みとして、改めてこれまでの活動に関する効果測定及び新たな課題の有無の把握・検討のため、関係者へのヒアリング（アンケート形式）を実施した。以下はその取組みにおいて寄せられた意見の一部である。

#### 【これまでの取組みを通じて得た、または感じた成果】

- フィードバック会議にて得た情報を、教員・学生で共有し”エアラインが求めるパイロットとは？””今の自分に足りないものは？”を考えて貰い、常に意識しながら学内の訓練に臨むよう指導した。今年度エアラインに内定した学生の1人は、卒業論文にて『パイロットに求められる素養から・・・』をテーマに取り組んでいた。また別の学生は、卒業研究と並行して旅客機（T類）の運用について質問しに訪れてきた。意識改革の大切さを感じた。（養成機関）
- 過去のWGの結果が、卒業生の技量の向上に直ちにつながるものではないとの認識。WGの場を通じて養成組織とエアラインとのパイプが生まれ、日常的に各養成機関やグループ会社と、問題点や現状の共有を行うようになっていることはとても有効的な意義を感じている。（航空会社）

【今後のWG活動に期待するテーマ・課題】

- エアラインへの合同企業訪問や他大学の学生との交流（情報交換）の場があれば、自分の状況等を客観的に捉えられモチベーションのアップに繋がると思う。（養成機関）
- エアラインとしては、卒業生の能力・適性、双方の底上げが必要と考える。健康適性が不十分なもの、実用的航空英語の習得が不足なもの、あるいはパイロットとしての適性において、十分でないケースが増えているように見受けられる。教育のやり方よりもスクリーニングをどのようになしうるかを養成機関とも議論してゆきたい。各大学がどのように適性スクリーニングを行っているかの実態を共有いただくとともに、国として職業操縦士に求める最低限の適性とは何かを模索していくことを当WGの課題として要望したい。（卒業後エアライン就職率の改善への貢献）（航空会社）
- エアライン、私立大学、民間養成機関から海外の養成学校まで、「教官不足」に苦しんでいる。各養成機関が若い世代の中から教官を育て、エアラインがその教官に合う教育の機会を提供するといった分業体制を検討する等、根本的な議論をしたいと考えている。（航空会社）

3. 今後の取組み

今回実施したような効果測定と課題抽出については、今後も適宜行うとともに、抽出された課題に応じて、テーマ毎に小グループを設けて検討する等、より具体的な対応策を検討していく。

<<添付資料>>

- ・ 技量向上ワーキンググループ構成員名簿